

帯広三条高校放送局の番組 before after

帯広三条高校放送局の主なドキュメント作品概要とその後

発表年	タイトル	概要	大会結果	その後
1 2008 テレビ	スクールゾーン・ダークゾーン	北海道朝鮮初中高級学校前には横断歩道もスクールゾーンもない。小学生は600m回り道して横断歩道を渡らなければならない。テポドンが話題になっているところに取材。	道8位 全国優良	横断歩道は未設置。だが、『減速』標識が設置された。除雪対象外のまま。ティーンズビデオでダイジェストながら放送(三条初)。
2 2009 ラジオ	ドド・レレ・ミミ・ファン	吃音に悩む高校生・保護者・看護師を取材。音が重なって美しい音色を出す音楽のように吃音も理解されたら、という思いをタイトルに込めました。	道3位 全国制作奨励	吃音に関する本や映画が多数見られるようになり、以前よりも認知度があがった。
3 2010 テレビ	空を翔る想い	帯広市在住の元海軍特攻兵 安藤健次郎さん(故人)を取材。三条初の戦争もの。しかし、テーマに対する生徒の理解度が弱かった。	全国準々決勝	親族がその後訪ねてきて、祖父の記録本を作る資料に提供してほしいとの申し出あり。
4 2011 ラジオ	八月のフェルマー	毎年8月6、9、15日にお寺の鐘を鳴らし平和を呼びかける20代女性を取材。この時三条初の校内アンケートを実施。三条生の60%以上がそれらが何の日か言えなかったことにショック。前作の『空を翔る想い』と違ってほぼ等身大の取材対象者だったので、気持ちが入りやすかった。	道1位 全国制作奨励	番組制作以降、ほぼ毎年、当時の局員は鐘を突くようになりました。※全国大会では音響施設が悪く、かなり音圧を上げない音が届かないことを知りました。なので、それからは意識的に音圧を上げるようにしています。
5 2011 テレビ	実る思い	21歳で就農した女性を取材。農業雑誌の表紙に出ていた笑顔が素敵だったので、ぜひ番組にしたいと思いました。年齢的にもほぼ等身大だったので、取材しやすかった。	道4位 全国優良	親交は今も続いていて、毎年、長芋を20kgほど分けてもらっています。女性は結婚されて子どももいるのですが、託児施設が無くて困っています。
6 2011 ラジオ (総文)	そして、カムイレンカイン	横浜在住である十勝出身のジャズシンガー、熊谷たみ子さんを取材。アイヌであることで差別を受け、歌手になるも、そのごガンになって余命宣告をうける。2011年のNHK杯全国の時に取材。相手も十勝出身とのことで無理な取材にも応えてくださいました。	道1位 全国(富山総文)AP部門参加	三条初のアイヌテーマ。そして、初の総文作品。取材したときはガンの摘出手術後、抜糸した翌日。無理言って、アメージンググレイスを歌ってもらいました。その後、熊谷さんはガンが進行して亡くなりました。取材対象者が亡くなることを初めて経験しました。
7 2012 ラジオ	推定13.3%	性犯罪被害者である女性に取材。東京在住の方でしたが、高校生が性犯罪被害について考えてくれるなら、とわざわざ帯広まで来てくれました。13.3%とは被害者が親告した割合です。取材をしていた生徒が途中でつらくて泣いてしまったり、しながらもインタビューを続けました。制作当時、審査員は男ばかりだから性犯罪をテーマにしたら引かれて、得点もつかないかも、と考えていました。それでも「私たちがやらなかったら、きっと誰もやらないテーマだから、やりましょう」と担当の生徒が言ったので制作にふみきました。顧問としてはドキドキしていました。 ※11ページ 資料1 参照	道1位 全国準優勝	三条初の決勝進出作品。少し違うかもしれませんが、#MeToo!やフラワーデモなどの先駆けになったと思います。日本は性犯罪天国なんだと、知った取材でした。2017年に法改正で性犯罪は親告罪ではなくなりました(10年ぶりの改正)。番組を担当した生徒はその後、テレビ局に入社し、ドキュメント番組に携わるようになりました。『僕が女性を襲うのは嗜好だから仕方が無い。あなたが、チョコやクッキーなどのスイーツが好きなのと同じですよ』という文面を見せられた時は、生徒たちもショックを受けていました。
8 2013 ラジオ (総文)	お湯と涙と微笑	乳がんで乳房を失った女性を取材。傷口が目立ち、大好きだった温泉にも入れなくなった。そういった女性たちが集まって、自分たちが思う存分に温泉を楽しめる企画を立て、実行する動きを番組にしました。	道4位	ラジオなら、傷跡も顔も出さなくて済む。その分、女性たちも深い思いを伝えられると考えました。2013年1月に末期がんで亡くなった熊谷さんのことがどこかにあって、制作に踏み切りました。その後、地元の十勝では傷口などが見えないような入浴着を着けて入れる温泉が10数か所できるようになり、北海道内でもその数が増えてきました。少しは社会貢献できたのでは?と思い始めた作品です。

発表年	タイトル	概要	大会結果	その後
9 2014 テレビ	髪の毛の絆	<p>ヘア・ドネーションという言葉がまだ一般的でなかったころ。地元の中学生在が髪の毛を寄付した、という小さな新聞記事を見つけ、帯広の美容室にアポを取ったのがきっかけで始まりました。当初はその女子中学生と美容室だけで取材は終わる予定でした。ですが、大阪にあるJHDAC(ヘア・ドネーションの受け入れ組織)さんが「マスコミの取材はずっと断ってきたけど、高校生が取材するならいいよ。旅費も出してあげるから大阪においで」と誘ってくれたので、ありがたく便乗しました。封筒に入った31cm以上の髪と手紙に感動。特に『誰かの笑顔の種になりますように』という言葉には、「絶対、この番組作りたいです。作らせてください」と生徒が訴えてきました。</p> <p>大阪での取材は封筒(段ボール・手紙)と代表者のインタビューだけで終わり、屋の飛行機で帰る予定でした。ところが、機材トラブルが発生してLCCが飛ばないことになりました。翌日は登校日ですから休めません。仕方なく、代わりに空席便(最終便)を確保しました。さて、どうしようか?と置いていたところ、『実は、午後からヘア・ドネーションする女性が3人これから来ることになっていますが、取材しますか?』と代表者の情報提供。はい。ぜひぜひ!と、初対面の女性3人をお願いしたら「いいですよ。どうぞ撮ってください」と快諾。その後、札幌のアデランスにも取材し、このことを話したら、「ぜひ、業務提携したい。詳しく教えてください」と言われました。アデランスさんはその後2回、わざわざ東京から帯広に部長職の社員がきて、取材対応してくださいました。度重なる偶然とたくさんの善意の結果、番組が完成。</p>	道1位 全国優秀	<p>髪の毛がJADACに送られるのは、2014年は週に段ボール箱2-3個分くらいでした。今は週に50-60箱。以前はJADACの事務室に収まる数だったのですが、今は別途 倉庫を借りて、仕分け専用のスタッフ・ボランティアの方が毎日忙しく作業しています。この作品の経緯を知った作家の方が『髪がつなぐ物語』という児童・中学生向けのドキュメント本を出版。帯広三条高校放送局の取り組みとヘア・ドネーションのことが書かれています。後に、この本は小中学生の読書感想文課題図書に指定されました。この番組を制作した生徒はその後、髪をずっと伸ばして『春の壁』を作った生徒と一緒に20歳の時にヘア・ドネーションしました。高校生だった時に『20歳になったらヘア・ドネーションしよう』と約束したことを実行してくれました。そして彼女は先日、2回目のヘア・ドネーションをしました。</p> <p>※私が以前 勤めていた高校の見学旅行で、深夜に勝手に風呂場にいる女性を見つけて怒ったことがありました。「私、髪がないので、かつらなんです。毎日洗わないと、かつらが傷んでしまうんです。ごめんなさい」と謝られたことが、ずっと心に引っかかっていた。制作の動機の一つです。あの生徒の思いに少しは応えることができている幸いです。時々、三条高校に名前を名乗らずに髪の毛を送ってくる方がいますので、その都度、三条高校名義でヘア・ドネーションしています。</p>
10 2014 ラジオ	春の壁	<p>大学生の52%が利用している学生支援機構の(有利子)奨学金。帯広三条では当時8割近くの生徒が利用していました。総返済額は利息も入れると平均約650万円。返済には15-20年かかります。大きな『買い物』ですが、その深刻さが知られていません。この番組の主人公の大学院生(24)は奨学金の返済総額が1000万円を超えました。自分たちの身近な問題である奨学金について取材しました。教員は気軽に『奨学金』を紹介しますが、その実態を知る人はほとんどいなかった。生徒も保護者も。</p> <p>※21ページ 資料2 参照 ※27ページ 資料3 参照</p>	道2位 全国優勝	<p>当時はごく一部でしか話題になっていなかった奨学金問題です。2014年当時は無利子の奨学金はほぼ無く、奨学金といえば『有利子』奨学金。ALTIに言わせると『それは学生ローンです』と。2018年度から無利子奨学金が実現。でも、本来の奨学金というのは『給付型(返済不要・もらえばなし)』なので、道はまだ遠い。日本の給付型奨学金の割合は0.6%。世界最低(OECD内)です。学費の高さは世界一です。例えばフランスの大学の年間授業料は約2万円。日本(国公立)は約56万円なのでフランスの28倍。という状況が分かりました。制作のきっかけは、放送局の卒業生(小樽商科大学)が遊びに来て局員たちと話した際、『バイトしても学費が払えなくなって、夜間部に転部試験を受けた。合格したら授業料が半額になるから』との言葉が心に残ったこと。番組は微力だけど、少しは社会貢献できたかも。</p>
11 2015 テレビ	明日檜(あすなろ)	<p>北海道の公立学校教員の10%以上、私立は30%以上が非正規教員。仕事は同じでも、将来の見通しが立たず、不安定です。それでも子どもたちに接していかなければならない期限付き男性教員を取材。</p>	道3位 全国準々決勝	<p>前年度のプレッシャーがあり、局員は本来の力を発揮できず、消化不良になってしまいました。北海道の公立高校教員の初任給は全国(47都道府県)で最下位。岩手は37位。この状況がずっと続いたためか、北海道では教員を目指す人が急減。人手不足になり、空いた穴を高齢者(75歳以上)の退職教員で埋めなければならない事態になっています。</p>

発表年	タイトル	概要	大会結果	その後
12	2016 ラジオ	冬来たりなば 生活保護家庭で育った高校3年生の女生徒を取材。きっと、荒んでいたりするんだろな、と勝手に思っていました。実際に取材するとものすごく前向きで面倒見がよくて驚きました。先入観はだめだ、と知った番組です。 ※35ページ 資料4 参照	道3位(本当は1位でしたが地震でNHK審査員の点が無効になったため) 全国優良	生活保護の不正受給が話題になっていました。しかし、資料を見ると不正受給は0.45%。この数字を知らないで『生活保護はみんなズルいんでしょ』という風潮が嫌で、番組を制作しました。生活保護は不正受給よりも、「本当に困っている人」を救い切れていないことが問題だと知りました。『生活保護のくせに太っている』という住民の言葉には局員もショックを受けました。安いものしか食べられない人は、カロリーを優先するため米を食べなければならず、野菜などにお金をかけられないことを知りました。
13	2017 ラジオ	わたし色 三条高校の学校祭で行われている男女装コンテストに疑問を持ち、LGBTについて取材しました。授業でも『～ああいう関係になったら大変ですからね～』と心無い言葉を発する教員がいたことも当時の局員が番組を作るきっかけになりました。	道3位 全国準々決勝	LGBTが話題になってきたころでした。北海道の大学でもLGBT当事者のサークルがあり、学習会や講演会を積極的に行われていることをしりました。翌年から、三条高校では女子も制服のスカート以外に、スラックスを着用してもよい、と規定が変わりました。
14	2018 テレビ	再起可能 傷害事件や窃盗事件などを起こし刑務所に服役した人がたくさんいます。しかし、その人たちが刑期を終えて社会に出てきて、居場所や仕事がなく再犯し、再び刑務所に戻ってしまう例が多い。再犯率は48.7%。この再犯率に心を痛めて、自分の経営する建設会社に積極的に元受刑者を採用している社長を取材しました。	道4位 全国制作奨励	社長は余命3年の宣告を受けており、時折緊急入院することもありました。元受刑者への取材は緊張して、『女子が取材しても大丈夫だろうか』といつもドキドキしました。顔出しNGの人も、OKの人もいて、プライバシーには気を付けました。採用者の9割が辞めて行きますが、1割の人が懸命に仕事をしてくれる。それだけでも、社会の役に立てる、という社長の言葉に感銘を受けました。
15	2019 ラジオ	鈍色の朝 新聞奨学生問題をテーマにしました。帯広三条高校でも進路室前に新聞奨学生募集のポスターが貼られています。ですが、その実態は教員にも生徒にも知られていません。2014年の「春の壁」制作でお世話になった方のついで取材をすることが出来ました。音で如何に情報を伝えられるかに苦労しました。SEを求めて、新聞の印刷工場や新聞販売店にも行きました。結構な手間をかけましたが、実際に使ったのはOPとEDの一部のみでした。 ※37ページ 資料5 参照	道2位 全国準優勝	「誰もが自由に勉強できる社会になりますように」との思いを込めて作りました。最初はその思いが定まらず、タイトルも「重い朝」、「紙の鎖」、「遠い夜明け」、「見えない朝」、「紙の奴隷」などと迷っていました。番組では使いませんでしたが、関東の新聞奨学生は北海道や東北出身者が多い、ことを知りました。地元では新聞奨学生制度が無い、あるいは数が少ないなどが理由のようです。
16	2019 テレビ	北の南風 昨年12月に帯広三条高校の近所でおきたベトナム人技能実習生の傷害事件報道をきっかけに取材。ハンマーで同居人を殴り、市内に逃走した。学校には教育委員会から『外国人(ベトナム人)に近づかないこと』の意の緊急メールが送られてきた。後に誤報であることが分かったが、生徒内や保護者には『ベトナム人は怖い』という印象だけが残った。本当にベトナム人って怖いのだろうか？ その疑問を持ち、外国人技能実習生を訪ねて取材。一緒に仕事をして、夕食をともにして分かったことは『家族や友人を大切にするメンタリティは自分たちと同じ』、『慣れない環境でのパワハラや不当な労働を強いられている実習生が少なくない』ということでした。今年4月、北海道の外国人技能実習生が1万人を超えました。帯広市周辺だけで言うと約2%の割合です。	道1位 全国制作奨励	外国人技能実習生を扱ったのはおそらく全国初。ひな形がありませんので、最初から手探りでした。また、ベトナム語をどうやって話そうか？伝わるだろうか？と悩みました。題名も『海を越えた面さん』、『2%の隣人』、『隣の南風』、などと定まりませんでしたが、取材を進めていく中で『北の南風』になりました。誤解や偏見という北風が、理解という南風になるという願いを込めました。現在、朝日新聞と、NHK札幌放送局のHPで配信されています。また、10/26に北海道大学で行われる学識者による外国人労働者研究会にて研究資料として上映される予定です。

資料1 推定13.3%ができるまで

コメント…Sが先, Iが後

① KMさんの話しを聞く前のイメージ

本や雑誌を読む限り、やはり性犯罪被害者ということで暗い方と思っていたので本
当に取材をしていいのかと思っていました。メディア関係のコメントも厳しかったので本
人と直接会って取材する前日はとても緊張していました。正直、取材する前は怖かった
です。

・性犯罪

特別関心を持ったこともなく、被害そのものについて深く考えたことはなかった。被害に
あわれた方は辛かっただろうな…と想像する程度。

・KMさん

「性犯罪被害者」であると公言されている…被害にあってもなお、負けない強いお方な
のかな、と。あらかじめ、直接お話をお聞きするまえにKMさん記事や本は読んではい
ましたが、本で語られている「過去のKMさん」から、これからお会いする「今のKMさん」
を想像すると、今までの取材とは違う緊張感がうまれました。

②KMさんの話しを聞いてからのイメージ

初めてKMさんと出会った空港、そして移動中の車の中。たくさん笑い、たくさん話しま
した。KMさんは思っていたイメージとは違い、明るく、おもしろい方でした。お話を聞い
たあとは、メディアもよく出る方なので話しなれてるなと感じました。なので、淡々と話さ
れるKMさんのお話にとっても胸が苦しくなったのを覚えています。ですが、がつつし緊張
してた私の予想とは裏腹にたくさんお話してくださったので強い方だなと思ってその日

は帰りました。そして、性犯罪被害について自分自身におきかえて考えるようになりました。実際に被害にあわれた KM さんの口から語られることで、初めて「性犯罪」から「性犯罪被害者」を意識しました。警察、政府、司法…被害者を取りまく今の実態を知りショックを受けたのと同時に、その中を生き抜く KM さんはすごいなあ…と圧倒されました。被害者の方に対して周りの人間は何ができるのか、自分の中で1つの大きなテーマが生まれたきっかけです。

③先生が KM さんの記事、資料を持ってきた時の感想

先生が持ってきてくださったとき、性犯罪という大きなネタだったので、できるかどうか不安でした。しかし、私は先生がこのネタを持ってきたということはそれなりの覚悟と考えがあるんだろうと思い、これで私たちの最後の作品を作り、必ず結果を残すことを決めました。ですが、最初から「さあ、番組を作ろう！」とはなれませんでした。自分の中で「性犯罪」という問題に向き合える自信が全くなかったからです。とりあえずですが、先生が持ってきて記事、資料に目を通しましたが…やはり、自分にはできないのではという考えのほうが強かったかもしれません。一方で、「KMさんに直接お話を聞きたい」という気持ちもわきあがってきていました。結局、性犯罪の番組をつくと決めたのは、KMさんとお話した後です。

④生徒 A さんの話しを聞いて、気持ちが固まったときのこと(どういう方向性にして、どんな気持ちになったか)

実際身近に性犯罪被害者いて、生徒 A の話をきいて、どんどん被害者と周りの人の差が明らかになっていると思いました。被害者の理解されない社会、被害者の怒りを知り、

私たちが番組を作ることにより被害者の苦しみを伝え、多くの人に理解してもらう作品を作りたいと思いました。ちょうど生徒 A さんのお話を聞いたときは、番組制作も半ばを迎えている時です。KM さんの言葉を並べるだけで、私たち自身が何についての番組をつくりたいのか、視聴者に何を伝えたいのか…完全に見失ってしまい、やはり自分たちにはこのテーマは重すぎたのかもしれないと思い始めていたとき。生徒 A さんのインタビューのなかで「一緒にいて、話を聞いてくれたのが一番嬉しかった」とありました。それだけでいいの？と最初は思いましたが、KM さんが同じことを言っていたのを思い出しました。「被害者の方に対して周りの人間は何ができるのか」KM さんの話を聞いた際に生まれたテーマの答えでした。そこから、性犯罪という社会的問題という観念から性犯罪被害者というある程度小さな的に絞り、私たちにできることという身近なテーマにもっていくということで高校生の視聴者にも伝わりやすい番組をつくろうというスタンスが固まりました。番組制作のなかでの、一番の転機だったと思います。

⑤作っていく上で大変だったこと(構成とか、考える上で)性犯罪についての番組は前例がなかった事について(見本がないなかでの作成)

性犯罪というネタなので今まで前例がなく、どこまで踏み込んでいいのか(プライバシーなど)どういう流れで、どういう終着地点にしたらいいのか、全くわかりませんでした。I とは試聴会のたびに落ち込んでいました。正解がわからないのでどうしたらよいか…。帰り道ずっと悩みながら帰って、電話しながら構成を考え、徹夜しながら構成をたて、徹夜しながら編集し、それでも正解がわからず組み立てられず、人に伝えられず…日に日に自信を失い、半鬱状態でした(笑)

その後、性犯罪についての取材を重ねたり勉強をして少しずつ形をつかんできました。本当に悩んで悩んで、テストラン1号は先生にも反対された構成でした。しかし、テストラン2号でAさんの話を取り入れ私たちの中ではこれが一番人に伝わる(身近から社会問題へという点で)と思ったのでこれでいきたいと押し切って進んでいきました。大会を重ね、私たちの中でも納得のいく仕上がりではなかったのですが、ネタがネタで周りが引いてしまったせいか改良点あまり述べられず取り組んだ事への意欲が評価されていたので…なんだか納得いきませんでした。そのせいか、自分たちが自信を持ってできた！といえず、北海道大会では特に落ち込みました(発表時)。

納得いくまで、満足しない、一つ一つにこだわる。妥協を許さない私たちだったので自分たちの中でも正解の番組を完成するまでが長かったと思います。ずっと追い求めてきました。

テーマです。

性犯罪といっても、範囲が広すぎます。一時は政府や社会を批判するような構成を立てているくらいでした…先生からは「7分でそんな大きな構成は無理！」と即ボツです(笑)あの時はまだ、自分たちが高校生であるのにも関わらず、背伸びした番組づくりをしようとしていました。その時にちょうど生徒Aさんのお話を聞いて…という流れになります。まず、番組をつくるかどうかで悩みました…。大会ということに関していえば、顧問の先生も話していましたがこのテーマで番組をつくるのは一種の賭けでした。「性犯罪」ネタは聴く人たちからひかれる。「こんなデリケートなことは高校生にはふさわしくない」、「自分たちでは抱えきれない」「前例がない」などなど。作成…構成でかなり苦しみました。逆に関に自分たちで自由に切り開いていけるという部分もありました。でも、こっ

ちの方向性であっているのかな…と手探り状態で常に不安との戦いでした。

⑥番組を作って、なにを視聴者に考えて欲しいか(番組作成の集大成)

性犯罪被害。その話題性により、本当にみんなが考えることを避ける、配慮をしない、身近に考えないということが起きています。それは性に関わるデリケートなためでもあります。そのことにより誰にもわかってもらえないと被害者は思っています。被害者にとって理解してくれる人がいるってことは本当に支えになることなんです。そのために、私たち自身も考える必要があると思います。今、本当に性犯罪被害が多く、特に高校生を含む10代の被害が一番多いんです。身近に考えなくなっている今、被害にあった子と周りの子の理解の差が大きくなっています。もしかしたら誰かに言いたくてもいえない、どうせ理解してくれないと思っている方もいると思います。KMさんの言葉を借りると「一緒に考えて、一緒に悩む」ことをしてください。この番組を聴いて、性犯罪被害者のKMさんの気持ちを知り、強さを知り、生徒Aさんの気持ちを知って、身近にあることを、自分の考えを深めることをしてくれたらと思います。性犯罪被害者の方は本当にたくさんいらっしゃいます。少しでも多くの皆さんの心に響いてくれてこそ、番組を作った本当の意味、賞よりも嬉しいことです。

・性犯罪は他人事じゃない。

10代の被害が一番多いという統計結果があります。自分が被害にあうかもしれないし、周りの人が被害にあうかもしれない。いつだってその可能性はあります。

・被害にあっても言い出せない人たちの存在を知ってほしい。

タイトルにあるように、性犯罪被害者の親告率は13.3%。しかし、あくまでこの数字は

暗数であり、その奥には声なき声が潜んでいます。それだけ性犯罪の問題は根深く、被害者を苦しめ続けているのです。

・私たちにできることは？

番組の中では「痛みに寄り添う」という表現をしましたが、答えはないですね…。

皆さんに考えていただく、ひとつのきっかけになればと思っています。

⑦番組を作る上で、後輩達にアドバイス

気持ちだと思います。番組なので、誰かに対してのメッセージ、伝えたいことがあるはず
です。それをしっかりと立たせて、作って行ってほしいです。そして自分たちが作った番
組を多くの人に聞いてもらうために、NHK ホールを目指してください。賞はついてきます
が、私たちは NHK ホールの 3000 人以上の方に聞いていただいたこと、全国放送され
たこと、インターネット配信されて多くの人に聞いてもらうために上へ、上へ、よい作品
を、と思って作ってきました。取材者とは仲良くなって、多くの事を知ってください。そし
てそのことについてよく学んでください。編集はとにかくこだわってください。私たちの編
集画面は大変な事になっています(笑)。一音一音気になるところをなおさないと、納得
いなくなってしまう。なので、細かいと言われる、他の人にとっては一瞬でわか
らないところまでこだわりました。その一音のせいで結果が変わってしまうと思ったら悔
いのない番組にしたいですね。あとは、周りの意見を聞いてください。試聴会を重ね
てください。なにがだめか、第三者の立場で意見をいただけるので作成者じゃ考えない
ことも発見できます。そして回数を重ねることにより、気持ちも固まります。最終的には、
番組愛だと思います。アドバイスなんて言えたもんじゃないですが(笑)。私たちは常に
視聴者を意識して番組を作っていました。特に、初めて番組を聞く人を大切にしました。

自分たちで番組を作っているとどうしても耳が慣れてしまい、内容も頭に入ってしまう。しかし、視聴者は大抵一回しか番組をききません。一回でどれだけ視聴者にメッセージを届けられるか！そのためには、何を伝えたいのか自分たちの中で明確にしておく必要がありますよね。…難しい(泣)。個人的には、何度も試聴会を開くことを強くおすすめします。作品は、人にみてもらうことで初めて番組になると思います。

⑧他の作品を作った時の思い出(ドルチェから遡ってよし)(取材経路など)

・dolce～心の音色～

これはIとのデビュー作です。

本当はNコンのネタである平和の鐘の取材で「平和コンサート」に行った際に偶然お話を聞いたHKさんに焦点を当てた作品です。思いついたのは先生とIと市役所の上でアイスを食べながら高文連のネタを考えていたときに、「あ、あのクロマティックハーモニカ奏者のHさんはどうだろうか」となりました。本当に偶然です、笑。

初めての本格取材だったため緊張でしたが、Hさんの優しい心に助けられ、今では私たちにとっておじいちゃんのような方です。クロマティックハーモニカの音色はすごくきれいで、北海道で唯一の教室を開いていらっしやっただけで北海道というところも、ラジオという点もクリア。取材は沢山行かせていただきました。教室へも先生に参加していただき取材しました。学校で、ミニコンサートも開かせていただきました。最初の作品だったので、作成時は研究に研究を重ねて審査員の傾向をつかみました。結果は全道4位。初めてにしては上出来かもしれませんが、ライバルには負けて悔しかったのを覚えています。ここで絶対北海道1位になってやると火がつかしました。Hさんはずっと交流がある方です、もはやお抱えの音楽職人です。本当に優しい、素敵なお方でした。

タイトル: 音楽記号「dolce」はやわらかい音色という意味があります。これはクロマティックハーモニカの音色のことも、そしてHさんの人柄も表しました。

・八月のフェルマータ

一年間の取材が実った作品だと思っています。2010/8/6.9.15の平和の鐘の取り組み取材, 2011/3の平和の鐘プロジェクト中心のWさんへの初取材, 2011/6/10, 11のWさんを帯広に招いての平和の鐘プロジェクト。大がかりだったとおもいます。戦争というネタだったので自分自身が戦争について知ろうとしない人でしたが、Wさんとの取材を通じ、私自身の考え方が変わりました。戦争を知る人がだんだん高齢になり、忘れられている今。8/6.9.15は鐘の音を聞いて、なぜ鐘がなっているのかというところから戦争の記憶を風化させない。そして今私も含め若者が戦争についての知識がなく、知ることが怖いという人達も、まずは知るところから始めて戦争を繰り返さない。鐘の音はとてもきれいで、心に響くものがありました。少しでも多くの人に響いて欲しい、多くの高校生に聞いてもらいたいと思って作りました。結果は初の北海道一位！これは本当にうれしかったです！実は軽い気持ちで「北海道一位になる！」と編集パソコン(Mac)に張り紙をしていたのでまさか実現するとは…！そして初めての全国大会はなにもわからず、準決勝に進めたものの、制作奨励賞だったのでまた悔しい思いをして帰ってきました。Wさんは優しくて、控えめな方で若いのに戦争について真剣に考えていらっしやる方でした。今でもツイッターでお話しています。

タイトル: 八月に鳴り響く鐘。鐘の音はフェルマータという音楽記号のようにどンドン響いていく。そのように平和の思いも響いていって欲しいという意味でつけました。

・そして、カムイレンカイネ

これは奇跡でした。八月のフェルマータで全国大会が決まって、行く前…本当に数日前に先生から新聞記事をもってきていただき、本別町出身のアイヌの方でジャズシンガーなのだが、余命一年と宣告され、そしてアイヌ語のアメージンググレイスを歌っている。お住まいが横浜だ。行くなら全国大会の時だ。ということでした！えっ！？と急なことでびっくりしてましたが、是非お会いしてお話ししたいと思い取材を始めました。Kさんは歌手という大物のお方。そしてパワフルな方。私は圧倒されて一回目の取材ではほとんど話せませんでした…。Kさんは余命一年と宣告されていらしてましたが本当に元気で、こちらが無理をいってしまいました。手術後すぐだったのに。抜糸をしたばかりだったのに歌を歌っていただき…。今考えると無謀なことを強いてしまったと思っています…。汗。取材はその後一回、札幌の豊平川でアイヌの儀式があったので取材をしました。IはKさんのアシスタントのようにべったり張り付いて取材でした。私は参加者への連続取材拒否をされ結構精神的に辛かったのを覚えています、笑。

取材ができたことも奇跡でしたが、Kさんの歌声も、元気も本当に素敵な方でした。北海道大会一位を二連覇！を成し遂げ、初の総文祭出場を果たせました。Kさんとは総文祭の後、直接お会いしてしっかりと感謝の気持ちをお伝えしました。一年ぶりの再会に10kgも減ったというKさん。ですが、Kさんから逆に私たちが元気をいただきました。

タイトル:カムイレンカイネとはアイヌ語のアメージンググレイスの歌のタイトル名です。「そして」には、カムイレンカイネを歌うまでの道のりと、Kさんにとってのカムイレンカイネ=「アイヌ語で、神からの恵み」を表しました。

・推定 13.3%

先生が KM さんの記事を持ってきてくださってやってみないかと言ってくださったことが始まりです。1月に東京から KM さんを帯広に招き(日帰り), 学校で講演会という形でお話を伺いました。取材はその一回と, 電話取材。あとは先生が東京に用事がある際にお願ひした取材のみでした。限りある材料のなかで構成をたてていくことは非常に苦勞しました。

タイトル: 最初は KM さんの名前と心の様子を表した「一人じゃない私」→「月が満ちるとき」→「三日月から望月へ」→「声を聞いて」→「STAND」という案で進めていましたが, 構成を大幅に変え, KM さんを含めた性犯罪被害についての番組にしたためこのタイトル「推定 13.3%」になりました。13.3%とは内閣府の犯罪被害者白書による, 性犯罪被害者の親告率です。ただでさえ少ない数字ですが, それさえも声をあげられずにいる方も沢山いらっしゃるということで「推定」という言葉を前につけました。取材先の方との繋がりを大切に! そこからまた新しい繋がりが生まれて、新しいネタをもらえたりしますよ。番組は取材先の方の協力があつてはじめて成立するもの…感謝の気持ちはいつまでも忘れないでいたいですね。

資料 2 2 年半のドキュメント生活

『カムイチェプ』（1年秋コン ビデオメッセージ）

はじめは、名前は忘れたけど、賞金がもらえるコンテストに出品しようとしてたサケの番組でした。先輩方にも結構好評だったんだけど、締め切りに間に合わなかったのと、S先輩が作った番組がだめになって、ということで秋コンに出した番組。

上士幌に居るアイヌ民族の方たちとサケが主人公の番組で、アイヌの方とお話するのは初めてで、しかも自分がメインの取材も初めてだったから、失敗続きでした。でも、先輩や先生がすごくたくさん手伝ってくれて思い出深い作品。アイヌ文化伝承会？の人の家にいたり、アイヌの歴史資料館にいたり、サケを撮影しに川にいたり（裸族誕生）しました。その間に、インタビューのコツや、どんな画をとったらいいかとか教えてもらいました。

だいぶ高齢の人たちに取材したから、もしかしたら死んじゃってる人もいるかも…。一度の出会いを大切にしないとイケない。

全道5位。他校の2つのトマト番組に負けたの悔しかった！

『シャボン玉 3番』（2年NHK杯 ラジオドキュメント）

唯一、私とAが提案したネタからはじまった作品。だからはじめはAと2人でやろうとしてました。

本当はずっとテレビをやる予定だったけど、このネタがやりたくてラジオに移りました。で、Mがラジオからテレビに変更。

はじめは、帯広の女子高生が墮胎したっていうネタから動いたけど、その子の学校にも拒否されて情報も少なく、大変でした。でも、結構ぎりぎりのときに家庭科のI先生が自信の流産体験を授業で話してるのを聞いて、I先生を軸に命を考える番組っていうふうに作品の方向性が決まりました。

シャボン玉は、童謡シャボン玉のことで、先生から提供された情報。正直、この情報を番組に組み込むのが一番大変で、その部分は全部先生にやってもらいました。難しいネタなだけあって、インタビューも慎重にやらなきゃいけないっていうことを学びました。身近な場所にもすごいネタがあるっていうのもわかったし、ドキュメントはドラマっていうのも知りました。

推定13. 3%と似たテイストだから変に気負っちゃって大変だった。
この作品で出会ったSさんには、『春の壁』で2度お世話になります。
全道4位。 全国のときは何一つ聞こえなかった。準決勝に進めなかったこと
で、一人で泣いていました。悔しいし恥ずかしかった。

『お湯と涙と微笑みと』（2年秋コン ラジオ番組）

はじめはなんでもすんなりいった作品。でも後半に苦勞した作品でした。
乳がん患者が集まる、「あけぼの帯広」の代表の方を主人公にした番組で、あ
けぼの会にお邪魔したときもすごく歓迎されて、いい台詞もたくさんとれまし
た。

第一病院の取材も皆さん暖かく迎えてくれて、個人のお宅にいたり、学校に
来てくれたりして順調だなーと思っていました。

でも、病院にいったことと、個人のお宅にいったことをあけぼの会の代表の方
が知っていて、ちゃんと断りをいれて取材をしてくれとか、あとからたくさん
の指摘を受け、どうすればいいのかわからなかったけど、自分が甘かったため
だなど。

取材相手に指摘されるのは『シャボン玉』につづいて成長してないと自分でわ
かりました。身体的なことや、その人の暗い部分を掘り下げる番組は難しい。
慎重にするべきだなど、学びました。

このとき会ったMさんは『髪の絆』でまたお世話になりました。

全道3位。あと2つ順位が高ければ全国総文に行けた。

『春の壁』（3年NHK杯 ラジオドキュメント）

みんなに知らせずに取材を始めた番組。他の局員には知らせずに、Mと先生と
札幌に行きました。『S計画 (scholarship)』と称して秘密裏に進めました。
私も奨学金を借りる予定だけど、みんな全然知らないし私も知らなかったし、
伝えなくちゃ、と一番強く思った作品です。今までで一番身近で切実な内容だ
からかもしれません。皆さんいい人で、主人公のFさんは何度も帯広に来てく
れるし、H先生も何度も取材を受けてくれるし、なにより安藤先生のありがた
みを一番感じました！札幌、行けそうとかいって行けなくてすいませんでした。
全国でもいい成績とれるといいなあ。（後に全国優勝）
全道2位。自己ベストは更新しつづけた！

まとめ

取材を重ねるごとに、知らなかった世界を知って、会うはずのない人と出会ってるんだなと思いました。放送局じゃなかったらこんなに外に出ることもなかったし、札幌にも大阪にも上士幌にもいくことはなかったと思います。

それに、作品を作れば作るほど、伝えることの大切さを知って、知らないことがまだまだあると自覚しました。だからもっと作り続けたいし、取材しつづけてたい。こんなふうに活動できるのは本当に高校生でいる間だけ、引退するまで、もう引退なんて悔しい。同じ高校生なのにもう私は作れないんだと。いまさら実感しました。

だから後輩にもドキュメントを作って欲しいし、いい成績を残して欲しい。

伝統とかはぜんぜん考えなくていいから思う存分、放送局員の特権を利用して欲しい。ほかの400人とちょっとの人は5人の知ってることをぜんぜん知らないまま生活してると思うとちょっと得してる気分になるはず。だからドキュメントをつくってほしい。

放送は応援されないし、マイナーだし、理解しようともしてくれない人もいっぱいいる狭い世界だけど、がんばってほしい。野球と比較したら泣けてくるからしちやだめ。

全然満足しないまま、いや、ちょっと満足して終わった2年半です！

補足

全国高校放送コンテスト 優勝 帯広三条高等学校 放送局

2014/10/20

放送局。皆さんは、どんな活動しているかご存じだろうか。放送の甲子園版と言える大会がNHK杯全国高校放送コンテストだ。本年 61 回を数える歴史ある大会に十勝で初めて優勝したのが、帯広三条高校。監督を務めた3年生MHさんとアナウンサーで出演したAMさん、そして顧問の安藤佳寿哉先生に放送にかける熱き思いを聞いた。

7月22～24日に東京NHKホールで、全国放送コンクールの決勝大会が行われた。全国から1681校が参加。うちラジオドキュメンタリー部門では470作品が出品されました。北海道は二段階選抜と言って、まず十勝の26校で予選を争い、勝ち抜いた学校が北海道大会にコマを進めます。北海道は148校と他県に比べ全国一の参加数。北海道を制する者が全国を制覇すると言われほど激戦でレベルが高いのです。全国大会に順調に進み準々決勝185校、準決勝40校、そして決勝の4校に残ることが出来ました。他校の作品を聞いていて、自分たちとあまりにも違うテーマのため優勝できるかどうか本当に分かりませんでした。というのも私たちは奨学金というお金にまつわる問題を扱った作品だったため、審査員にどんな評価を受けるのか皆目見当がつかなかったからなのです。

春の壁

なぜこのテーマを選んだのか？昨年暮れ安藤先生に奨学金問題の本をみせてもらい、自分たちの身近にあるテーマにもかかわらず全然知らなかったことに衝撃を受けました。私たち自身も進学する時にお世話になるにもかかわらず、無関心だったのです。そこで、奨学金の問題を扱う団体の集会在札幌であるということを知り、昨年12月参加することにしました。当日は、2012年全国大会で準優勝した放送局の先輩が出席し、自らも奨学金を借り、これから迫りくる返済への不安な気持ちを切実な問題として語っていました。その時に言っていた言葉

がタイトルになった「春の壁」。雪が解けて期待に胸膨らせる新しい春の季節に、奨学金という壁が立ちはだかる。聞いた瞬間に心に響いた言葉となりました。放送局は部員が9名おりますが、それぞれがテーマをもって制作しています。サブで手伝ってくれたAさんは同じNHK杯のテレビドキュメンタリー部門に出品し全国3位の表彰。本当はダブル優勝を狙っていたんです。少ない人数でもお互いが協力し合いながら高め合う。そんな雰囲気が三条高校にあります。

取材は、どうしても大学が多い札幌が中心となってしまいます。お金も時間もかかるため、少ない取材回数で内容の濃い準備が大切です。大まかな構成を立て取材して編集。聞いてみて、弱い部分をまた取材で補う。何よりも難しいのは、ラジオ放送で奨学金問題を初めて聞く人たちにどうやって7分間でわかってもらえるかということ。お金の話は、返済や金利など人によっては聞きづらいテーマなのです。もっと身近な問題として、言葉を絞って絞って一番伝わる数字って何だろうって考え抜きました。結論として北大生のうちの半数の9千人以上が借りているという表現になりました。高校生の子どもの持つ親や本人たちも進学する二人に一人は借りる可能性がある。自分の身に起きて初めて気づく問題を伝えたかった。奨学金は、全国で初めて取り上げたテーマであるため、ひな形もなかった。初めて尽くしで多くの苦労もありましたが、三条高校は人がやったことはやらない、常に最先端を突き進む精神があります。そして、何よりもドキュメンタリーにこだわる。ドキュメンタリーとは、実際にあった事件などの記録を中心として、虚構を加えずに構成された放送番組です。バラエティとは違う硬派の作品を作り続けることが帯広三条のポリシーである「パイオニアワーク」なんです。

放送局はキャリアウーマン

放送局は、体育会系の部活と違って難しい問題があります。運動部では練習時間が決まっていますが、放送局だと自宅でもパソコンで編集作業が出来るため、一日中部活という状態に陥ってしまうことが、ままあります。つつい大会の締切に合わせて部活を優先してしまい、

勉強がおろそかになって成績が落ちるなんてことも・・・。

反面、良い所はいろんなジャンル、世代の人たちに話を聞いたり交流が出来ます。地域も極端に言うと全国各地の方と可能です。知識も運動部は、その運動についてのスペシャリスト型ですが、放送局はテーマが複数あるため、横断的で様々な角度から掘り下げて調べるゼネラリスト型だと思います。取材や編集も行うため人にも物おじせず、パソコンも使え多岐に渡って興味や関心を持つということは、将来社会に出たときに非常に役に立つと思っています。

全国大会決勝の時、ラジオドキュメンタリー部門の前の発表では下から表彰されていました。私たちの部門がやってきて、緊張している中、一番最初に帯広三条高校と言われ、理解できないままステージに上がった瞬間、後ろに座っていた友人の奇声を聞いて「あー、優勝したんだ」と実感がわかないまま賞状とトロフィーをもらいました。後日、審査員からの講評で「帯広三条高校の春の壁は、奨学金制度という高校生にとって身近で切実な問題をテーマにした着眼点と丁寧な取材、高い構成力であった」との話を聞き、報われた気持ちになりました。三条高校放送局が強いのは、安藤先生がいるからこそ。いつも締切を守らず怒られてばかりでしたが、これからも後輩たちに全力で情熱を傾けてほしいと願っています。

文責：AM（髪の絆を担当）、MH（春の壁を担当）

資料 3

高校生とともに考える奨学金ミニ講座@帯広三条高校

2014年1月31日

インクル（北海道学費と奨学金を考える会）

弁護士 橋本祐樹

独立行政法人 日本学生支援機構の事業

1 歴史

- 1943年 大日本育英会 成績優秀者に対する教育の機会均等
無利子貸与、部分的給付、特定職への返還免除
- 1953年 日本育英会
- 1971年 中央教育審議会が奨学金の有利子化を含む受益者負担政策打ち出し
- 1982年 土光臨調（中曽根内閣）で奨学金の有利子化を答申
- 1984年 有利子奨学金（第二種奨学金）導入
- 1999年 「きぼう21プラン奨学金」（第二種奨学金の改変）導入
- 2004年 日本育英会廃止→日本学生支援機構の発足（奨学金の金融事業化）
日本育英会が組織として民間金融機関と競合していることが理由

2 奨学金の変質

一部給付的なものから、貸与へ
無利子貸与から、有利子貸与へ

3 奨学金の種類

(1) 第1種

無利子…全利用者の4人に1人くらい

(2) 第2種

上限3%の有利子…全利用者の4人に3人はこちら

有利子奨学金の返し方

1 利子とは

金を借りたことの利用料であり、返済額から元本より先に充当される

2 返還シミュレーション

(1) 例

貸与月額10万円×48か月＝総貸与額480万円

利率 3%

→494万4000円を返せばいいということではない。

- (2) 20年かけて（返済回数240回）月額2万6914円を返済する。
480万円の20年分の利用料として利子3%がかかってくる。
→総返済額は645万9360円となる。

(3) 少し詳しく…

年数	残金 (利子なし)	利子	年間返済額	元本への充当
1年	①480万円	①×3%= ②144,000円	③ 26,914×12= 322,000円	③-②= ④178,000円
2年	①-④= ⑤4,622,000円	⑤×3%= ⑥138,660円	⑦ 322,000円	⑦-⑥= ⑧183,340円
3年	⑤-⑧= ⑨4,438,660	⑨×3%= ⑩133,159円	⑪ 322,000円	⑪-⑩ ⑫188,840円
10年	約299万円	約9万円		約23万円
15年	約175万円	約6万円		約26万円

表から分かるように、最初の数年は、返済した金額の4割程度が利子の支払いに充てられてしまい、元本が減っていない。

20年合計で、165万9360円もの利子支払をしなければならない。

3 有利子奨学金の問題点

奨学金については「借りたものは返さないといけない」「返済して、次の世代の奨学金の原資を確保するのだから返さない」と迷惑がかかるなどと言われている。

しかし、上記からわかるように、元学生の返済が、次世代の奨学金利用者の貸付原資に充てられているわけではなく、機構の儲けになっていることがわかる。

返したくても返せない

1 従来日本型雇用の崩壊

- (1) 15~24歳の非在学人口に占める非正規雇用・無業の割合増加

1985年 男性12% 女性26.6%

2010年 男性44% 女性51.8%

- (2) 低収入

国税庁の「平成24年分民間給与実態統計調査結果」によると…

正規労働者の平均年収は467万円（男性520万円、女性349万円）

非正規労働者の平均年収は168万円（男性225万円、女性143万円）

2 その他の要因

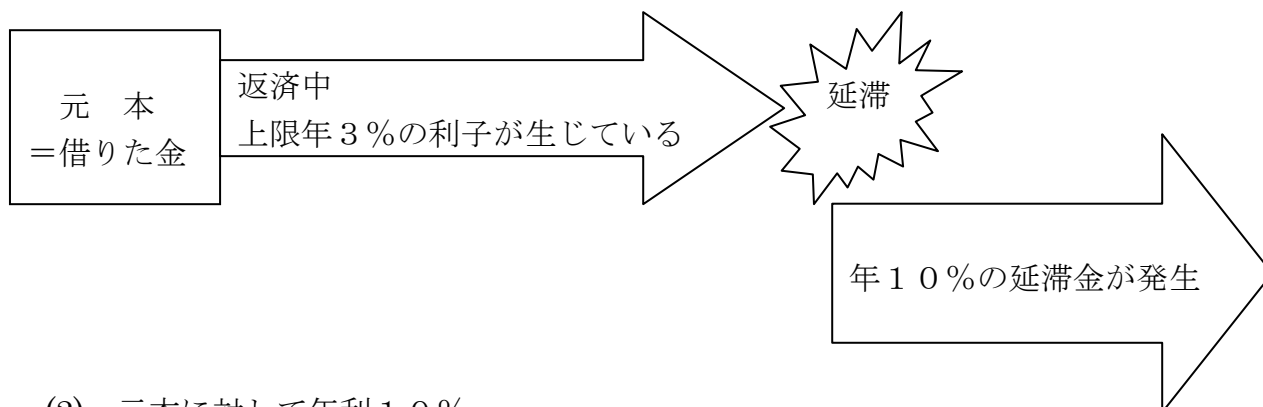
正規雇用であってもブラック企業に就職してしまいすぐに辞めざるを得なくなったり、会社が倒産したり、会社からリストラされたり、あるいは心身を壊し退職したり…という不安定要素もある。

これらも、バブル経済崩壊後において、多くの若者にとってより身近なリスクとなっている。

延滞ペナルティ：延滞一日目 延滞金

(1) 延滞金とは

返済できない、返済が遅れたときのペナルティとして発生する損害賠償金



(2) 元本に対して年利10%

民法では普通、損害金は5%と定められているが、あえて高めに設定してある。

(3) 充当順序

延滞金が発生した後、返済を再開した場合、延滞金→利息→元本の順に充当→元本の10%以上の返済ができなければ、永遠に延滞金ばかりを払い続けることになる。

⇒上記の例で、3年目に何らかの理由で返済できなくなったとして…

元本443万8660円×10%＝延滞金44万3866円

返済できない理由が解消して年額32万2000円の返済が可能になったとして、全てが延滞金の返済にしかならず、それでも12万1688円が不足する。

元本は減らせなかったことから、元本443万8660円はそのまま。元本が減っていないので、返済していても延滞状態。

12万1688円の延滞金と、新たに生じた44万3866円の延滞金を合わせた56万5732円を支払わないと、延滞状態は解消しない。

以降、毎年32万2000円を返済していたのでは、延滞金に充当されるのみであり、元本は一切減らないまま、延滞金ばかりが膨れあがる。


延滞ペナルティ：延滞3ヶ月目 ブラックリスト化

- (1) 延滞3か月で、延滞者情報が個人信用情報機関（いわゆるブラックリスト）に登録される
→ブラックリストに登録されると、ローンやクレジットカードの利用が困難となる（車や家を買うときにローンを組めない、ETCも使えない）
返し終えても、5年間は情報が残ってしまう
*現在は、申込時に、延滞した場合に個人信用情報機関へ登録されることを承諾しないと、機構の奨学金を利用できない
- (2) 2012年5月現在 1万2000人を超える登録がされている

延滞ペナルティ：延滞4ヶ月目 サービサーによる回収

- (1) 延滞4か月で、日本学生支援機構は、延滞債権の回収をサービサーに委託
*サービサーへの委託費用には、延滞金・利息収入が充てられている（サービサーが20億円を取り立てて、機構から1億円以上の収入を得ている）。
→元学生が苦勞して支払った延滞金が、次世代の奨学金原資に充てられることなく、民間の金融会社の儲けになっている。
- (2) 2011年度 約7万件がサービサーにより回収されている

延滞ペナルティ：延滞9ヶ月目 支払督促の申立

- (1) 延滞9か月で、支払督促の申立が行われる
支払督促とは、簡易な方法での訴訟提起であり、申し立てを受けた者が2週間以内に督促異議の申し立てをしないと、支払督促の申立書に記載された通りの内容で確定し、普通の訴訟での勝訴判決と同じ効果を生じる。

強制執行と言って、財産（不動産・動産・債権など）を差し押さえて、売って金にすることができる。
督促異議を申し立てると、通常の訴訟の手続になる。
- (2) 2000年 338件 2011年 1万0005件

回収強化策の背景

- (1) 借りたものは返せ
受益者負担論
- (2) 金融事業としての側面に着目した抜本的見直しと効率化（行革刷新会議中間報告）

返せないときの手段（制度内救済策）

1 返還期限の猶予

災害・病気等、在学中、生活保護・失業などの経済的困難性が要件

目安

給与所得者：300万円以下

自営業者等：200万円以下

猶予期間中は、利息も延滞金も生じない

しかし、通算で60か月（5年）しか認められないのが原則（病気、生活保護、在学中等は例外）

延滞状態の解消をしないと、猶予の申請の審査を受けられないという運用

→「内規」という非公開の基準に基づく

返せないから猶予したいのに、返してから猶予の制度を利用しろと無理を言う

2 減額返還制度

傷病その他の経済的困難性が要件

一定期間、1回あたりの返済額を2分の1にする（その分、返還期限が延びる）

延滞状態の解消をしないと利用できない

3 延滞金の減免

「真にやむを得ない事由」が必要

・ 本人や連帯保証人の責めに帰することができない事情により延滞金が生じて延滞金の請求が適当でないと機構が認定したとき

・ 本人が死亡したり障害がある状態で、連帯保証人が提出した分割返済計画書を機構が承認したとき

4 返還免除

本人の死亡、障害による労働能力の喪失・高度の制限等の返還を困難とする事情が必要

何度か返還期限の猶予を利用した後でないと免除を利用できないという運用があるようである。

5 所得連動型無利子奨学金

2012年以降、無利子奨学金を借りる者のうち、親の給与所得が300万円以下（自営だと200万円以下）の場合、元学生本人の年収が300万円になるまで返還が猶予される

ただし、すでに借りている者には適用がない、枠も少ない

6 問題点

いずれも要件が厳格なうえ複雑で、利用するにはハードルが高い

そもそも、このような制度があることについて周知が不徹底

返せないときの手段（法的対応）

1 督促異議→通常訴訟の中での主張

(1) 契約不成立

ア そもそも未成年＝制限行為能力での契約という特殊性…取消可能性
将来どんな仕事に就いて、どれだけの収入を得られるか不明な時期の借入
十分な説明がなされなければならない。

*現在、橋本が代理人となっていてこのような主張をしている裁判が札幌地裁で続いています。

イ 親が勝手に借入

本人に借入の意思がない…契約が無効

(2) 時効援用

返済期日から10年経過していた場合、「消滅時効の援用」（長期間の経過による法的安定状態を尊重して、もう債務はなくなったので払いませんという意思表示）をすることで債務を消滅させることができる。

ただし、10年が経過する前に訴えを起こされていたり、債務承認（払いますというような約束等）をしていた場合は、時効中断事由となり、債務は消滅しない。時効期間経過後に債務承認した場合も、時効を援用することができなくなる。

(3) 和解

本来、互譲を内容とする。

しかし、機構は金額については譲歩せず、支払期間のみの譲歩をもって和解だという。

機構は、利息・延滞金を含めてビター文負けない姿勢であり、問題である。

その姿勢を改めさせるため、しぶとく、利息・延滞金は払わないと主張し続ける。

2 債務整理

(1) 自己破産

返済不能になった場合に、財産（土地・家、車など）を金に換えて債権者に配当したうえ（財産がない場合は、換金もしないでいい）、残った債務の返済を免除する裁判所を利用した手続

自己破産をしても、日常生活を営むための家財道具まで失うことはないし、9万円以下の現金は保有が認められる。

選挙権が行使できなくなることはないが、破産の手続が続行している間は保険募集人や警備員など一定の職業に就くことができなくなる。

(2) 自己破産の利用を躊躇させる事情

奨学金を借りるときは、機関保証（保証会社に保証料を支払って保証をしてもらうこと）でない限り、連帯保証人（通常は親）と保証人（親族）をつけなければならない。

自己破産の効果は連帯保証人等には及ばないため、本人が自己破産すれば、機構は連帯保証人等に請求をする。連帯保証人等も高齢等で支払えない場合、連帯保証人等も自己破産をすることもあり得る。その場合、年老いた両親等が住む家や先祖伝来の土地などを売却しなければならない場合がある。

(3) 困ったときは自己破産

自己破産は、借金をチャラにして再生をするための手続

若くて蓄えのない元学生本人より、連帯保証人等のほうが蓄えがあることのほうが多いのであるから、対処可能なこともある。

まずは自分が借金から追われる状態を脱して、経済的再出発を図るべきである。

奨学金問題対策全国会議・インクル

1 あれこれ言ってきましたが…

教育を受ける権利は憲法上保証された基本的人権です（憲法26条）。教育を受ける権利は、裕福な家庭に生まれたかそうでないかで差別されてはなりません（憲法14条＝平等権）。

希望する高等教育を受け、そこで身につけた能力を発揮することで社会全体が豊かになるのです。

また、民主主義国家では、教育を受けることで社会的問題を自ら考え、投票する際の材料とすることができののですから、教育を受けることは民主主義にとって不可欠な要素です（憲法前文、1条、15条、41条＝国民主権）。

そういう意味で、高等教育を受けることで利益を受けるのは、社会全体なのです。

ですから、高校生のみなさんは、自ら希望する進路に積極果敢に挑んでいただきたいと思います。

学費と奨学金の問題は厳然として存在していますが、それを対処方法とともに知っておくことで、萎縮することもなくなると思います。

2 これから必要なこと

入口 中等教育・高等教育の無償化

高校・大学等の高等教育における給付型奨学金の導入・拡充

貸与型奨学金における利息・延滞金の撤廃

出口 貸与型奨学金に個人保証人を付けさせない

返済金の充当順位を、元金→利息→延滞金とする

返済困難な人の実情に合わせた救済制度の充実

【利用条件の緩和、利用期間制限・延滞による利用制限の撤廃等】 e t c .

- 3 本質的解決に向けて
借りたくなくても借りざるを得ない…
返したくても返せない…
それが、現在の学費と奨学金を取り巻く問題です。

問題の集積＝当事者の声 } これらが必要です。
ともに行動してくれる仲間 } ぜひ、インクルにご参加下さい。

☞連絡先 インクル 弁護士 橋本祐樹 hashimoto@hg-law.jp

資料4

ラジオドキュメント（7分以内） 2016

『冬来たりなば・・・』（仮）

Op : 最初、今晚寝るところがない。病院で泊めてくれないかって言われて。

全然お金がなくて困って... 聞けば本州で仕事を無くして...

BGM: シリアス系

クレジット: 北海道帯広三条高等学校放送局制作『冬来たりなば・・・』

SE : HRの雰囲気。今日の連絡ですが...。進学対象者ですが、奨学金の案内が来ていますので希望者は...

インタ①: 家には全くお金がなくて、学校に行くのが辛かった。特に学校祭なんかの行事があるときはお金を2000円とか3000円とか集めるので。家には1000円もなくて...

ナレ : Oさん(18歳)は10歳の時から生活保護を受けて生活しています。

現在高校2年生のOさんは

インタ②: まわりの視線がつかったです。

『どんな?』

えっ、なんか、あいつん家、生保もらってるんだってよ言われてて。小学校の時ですよ...

『小学生で生活保護ってわかるんですかね?』

いやー、多分、周りの大人が言っていたのを聞いたんだと(思うんです)

BGM(転換)

ナレ : 生活保護を受けて学校に行くのは悪いこと(恥ずかしいこと)なのでしょうか?

本校のPTAの(保護者)方は...

インタ(PTA①): まだ働けるのにね、お金だけもらってずるい

インタ(PTA②): 不正にもらっている人ばかりで、真面目に働くのが損...

BGM(暗転)

ナレ : 数年前、芸能人の母親が生活保護をうけていることでバッシングされた事件がありました。生活保護はそんなに悪いことなのでしょうか。

貧困問題に詳しい弁護士の橋本先生によれば...

インタ(橋本先生): 生活保護は憲法第25条「全ての国民は文化的で健康的な最低限度の生活を...」

ナレ : 厚生労働省の調査によれば生活保護支給の把握率は95%。つまり、なんらかの事情で不正かもしれない数は5%未満です。ほとんど適切に実施されているのに、多くの方は5%未満の方を話題にしてそれが全てであるかのように扱います。

インタ(Oさん): お前の母親もどうせ働く気がないなまけものだらって。母親は鬱病で働くどころではなかったんです。なのに...

SE : 雑誌社の雰囲気 (電話とかFAXなんか)

ナレ : こんな中で、生活保護のイメージを変えて、理解を深めて欲しいと生活保護をテーマにした雑誌を出版されている方がいます。雑誌「はるまち」の編集長 小林明さんです。

インタ (小林) : 生活保護を僕も受けていてそのときの体験が... 釧路の春って遅いんですよ。僕はコートやら暖房費がかかる冬が嫌いで...、早く春になってほしかった。お金がかからないから... だから雑誌の名前も「はるまち」...

ナレ : このような努力はあってもまだ、生活保護受給への理解はまだ進んでいません。

インタ (Oさん) : 高校の時に習った「冬来たりなば、春遠からじ」って言葉が好きでした。でも、みんなの心の方はまだまだ冬ですよ...

BGM (エンディング)

ナレ : 景気は厳しく、釧路 (北海道) の風はまだ北風。5月中旬にならないと桜も咲きません。春はまだ先です。

インタ (Oさん) : いつかみんなが生活保護の意味をわかってくれる日がくると思います。それでも春は来るんです。きっとね...

クレジット : 制作は北海道帯広三条高校放送局でした。

資料5 鈍色の朝 全国準優勝

今回はこのような素晴らしい賞を受けることができ、とても感激しています。取材を始めてから半年以上をかけ作り上げた番組でしたので、取材を受けてくださった方々、その他関係者の皆様のお助けに報いることができた結果だと思います。

新聞奨学生という難しいテーマだったためうまく構成していけるかどうか、とても不安でしたが、局員やこの番組取材を通して知り合った方々などの支えにより、完成させることができました。感謝の限りです。ありがとうございます。

私たちが取り上げたのは、新聞配達に従事することで入学費や授業料などを支給（肩代わり）される新聞奨学生制度についてです。毎日早朝の新聞配達や、授業を午後から早退しての夕刊配達、さらに深夜に及ぶ集金作業などの業務により、睡眠・勉強時間を満足に取れないほど忙しい生活を送っている新聞奨学生。かつては史上最年少の18歳の過労死者まで出たその過酷な状況は、現代においてもあまり認知されていません。そういった現状や彼らの声を広く伝えるべくこの番組制作に取り組みました。

番組を作っていく中で幾つか大変だったことがあります。まず、私たち自身、新聞奨学生どころか奨学金制度のことを少しも知らなかったということ。より良い番組を作るためには、制作者が勉強してテーマを理解することが必要不可欠です。そのため、新聞奨学生のことだけでなく日本の奨学金制度、大学で学ぶための学費などを一から学び直しました。その学びの中で気がついたのは、私たち高校生は大学にかかる費用や奨学金のことを学ぶ機会がとても少ないということです。自分の将来に関わる事とは言っても、多くの高校生は奨学金制度の実態をあまり知らない、または興味をもって学ぶことがほとんどないという状況です。これはこの国が抱える大きな問題の一つなのではないのかと考えるようになりました。

また、番組を作るために身につけた知識をいかに現代の高校生にも伝わりやすく表現するかも課題でした。できるだけ多くの情報を入れようとすると説明が長引き、くどい印象を与えてしまいます。簡潔に、かつ大事な情報は漏らさないよう簡潔にまとめていく。そのことを常に念頭に置きながらの構成作業でした。

さらに、この作品はジャーナリズム的要素を含むため自分自身の立場を明確に、かつ傾倒しすぎないように考えていかななくてはなりません。主張が弱いと何を伝えたい番組なのか誰にもわからない、しかしあまりに偏った意見を出してしまうと単なる独りよがりな作品にしかならない。その加減を見極めることに、何度か悩まされました。

この作品を作っていく中で、自分の未熟さを思い知らされることも多々ありました。先生や先輩方から「もっと取り組みを早く始めて」「文字起こしはすぐにして」などのアドバイスを頂いていたにも関わらず何ヶ月も先延ばしにしてしまい、編集に費やす時間を結果的に削ってしまいました。また、インタビューの音声からノイズを除去

しようとし、結果音質をかなり落としたものを提出してしまいました。音質の点に関しては、提出前のものを一度誰かに聞いてもらえば解決したはずの問題です。今後の自分、後輩たち、そしてこの文を読まれるであろう放送局員の皆様には「文字起こしなどの準備は必ず取材後すぐに取り掛かり、終わらせる」、「自分の力量に合わない仕事を本番では行わない」、「仕事を終わらせる前に、必ずその出来栄を誰かに見てもらう」、以上の点を忘れずに番組作りに取り組んでほしいと思います。

この作品を通して私たちが言いたかったことは、新聞奨学生制度が悪い、などという批判の意見ではありません。お金がないから勉強する手段に限られるという人達が居るという事について、より広く社会に考えて欲しい。そして、そういった人たちが今もいる事が問題であるのだということに気がついて欲しいのです。

作品のタイトル『鈍色の朝』には新聞奨学生はつらいけど真っ暗ではなく、どこかにほのかな希望の光が見えますように、との思いを込めました。「新聞配達なんて大変な仕事をしているんだね」「それでも学校に通うだなんてすごいね」という第三者からの感想で終わらせるのではなく、同じ社会で生きる人間の一人、当事者としてこの問題について積極的に知り、考えて行って欲しい。新聞奨学生問題は「どこかで頑張っている誰かが抱えている問題」などではありません。あなただけではなく、家族、友人、パートナー、子孫の誰かは必ず関わってくる問題です。

この番組を聴いた人が、どうか当事者の一人として奨学金問題を考えてください。そして、誰もが自由に勉強できる社会に少しでも近づいてくれたなら、番組を制作した私たちの最大の喜びです。

最後に改めましてご協力して下さった多くの方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

執筆者：北海道帯広三条高校2年 KY